

## 会 議 結 果 の お 知 ら せ

第3回宮古市教育振興基本対策審議会を次のとおり開催しました。

令和6年11月19日

宮古市教育振興基本対策審議会

- 1 開催日時  
令和6年11月19日（火） 午後3時～午後4時45分
- 2 開催場所  
宮古市立図書館 2階会議室
- 3 議題  
宮古市教育振興基本計画について
- 4 会議の概要  
別添のとおり
- 5 問い合わせ先  
教育委員会事務局総務課 電話0193-68-9114

### 第3回宮古市教育振興基本対策審議会

1 出席者（16名）

芳賀 郁夫、晴山 純子、上山 則夫、小野寺 文雄、坂下 実穂子  
岩船 敏行、刀澤 仁、松田 和夫、戸由 忍、久保田 将登、橋本 聡、  
豊島 喜美子、昆 亜紀夫、五十嵐 崇、福原 隆泰、八島 彩香

2 欠席者（6名）

伊東 道夫、藤原 淳一、田中 宣廣、渡部 玲子、佐々木 幸子、畠山 正広

3 事務局出席者（16名）

伊藤晃二教育長、佐々木勝利教育部長、伊藤眞総務課長、菊池正幸学校教育課長、  
佐々木雅明生涯学習課長、安原誠文化課長

山崎寿子総務係長、田鎖潤副主幹兼施設係長、長澤李主事

関口八重子副主幹兼学校教育係長、富山一真学習指導係長兼指導主事

清水賢社会教育係長兼社会教育主事、高山弘二副主幹兼スポーツ振興係長

澤田郁治文化係長、江口邦泰学芸係長、假屋雄一郎市史編さん室長

4 傍聴者

なし

5 議事等

宮古市教育振興基本計画について

宮古市教育振興基本計画について事務局から説明し、質疑を受けた。

質疑応答内容

質問・意見	回答
<p>【議題「宮古市教育振興基本計画について」】 (委員) 前回の審議会で出された意見がしっかりと反映されていると感じた。</p> <p>(委員) 8ページの現状について、不登校の出現率やいじめの認知件数の増加が深刻な問題だと書かれているが、いじめの認知件数が増えることは悪いことではないと言われている。認知されることが問題だという表現ではなく、いじめ解消に関する取組などについて記載するなど工夫してほしい。</p> <p>(委員) 2ページ(1)ふるさと宮古に誇りをもつ子どもの育成の中の友好都市交流事業で挙げられている都市の記載順は何の順番か。姉妹都市や、友好交流都市で考えると、黒石市、多良間村、大仙市の順番になる。関わりの長さで考えると、黒石市が一番長い。どの順番にしても、黒石市が最後に記載されることはないのではないか。</p> <p>(委員) 2ページ(2)復興教育の充実に「様々な困難な事象への対応に関連付けたリ転移させたりしながら」とあるが、転移という言葉があまり聞きなれない表現だと感じた。わかりやすい表現にした方が良いのではないか。</p>	<p>(事務局) 文部科学省では、いじめの認知件数は増えて当たり前だと言われている。不登校の出現率やいじめの認知件数に関する文章の後に、補足説明として各学校の認知度は上がっており、先生方が子どもたちのシグナルをとらえられるようになってきているという表現を追加したい。タブレットを活用して、アンケートをとったり、困っていることはないか聞き取りをしたりして認知件数は上がっている。認知件数が増えることは悪いことではないということが伝わるよう整理したい。</p> <p>(事務局) 委員のご指摘のとおり、友好都市と姉妹都市がある。各都市との関係を正確に整理し記載したい。</p> <p>(事務局) ご指摘のとおり転移という表現は分かりにくいいため、転移という言葉削除し、簡潔にまとめたい。</p>

(委員)

転移という言葉は、自分事をイメージしているのではないかと感じた。他人事ではなく自分のこととして、行動に結び付けていかなければならないということを伝えるための表現だとしたら、置き換えたり削除したりしない方が良いのではないか。

(委員)

3 ページ (4) 国際理解教育、キャリア教育の推進は、2020年から2024年までの計画では、それぞれ (4) 国際理解教育と (5) キャリア教育の推進に分けて記載されていた。それぞれ目的が異なっているため、前回のよう項目を分けた方が良いのではないか。ただ、前回の計画ではあった (6) 交流学习の推進と (7) 環境問題に対する興味・関心を高めるという項目が削除されているため、今回の計画ではまとめて記載する方向性であれば、国際理解教育とキャリア教育の推進がまとめられていても良いと思う。目的という観点では、分けるべきだが、全体の構成を見るとまとめるべきだと思う。

(委員)

国際理解教育について触れられている部分が少ないと感じた。(1) のふるさと宮古に誇りをもつ子どもの育成では、他地域との交流について大きく取り上げられているが、国際理解教育ではコミュニケーション能力の向上や、地域に対する理解について大きな枠で書かれている。付け加えるのであれば、留学制度が挙げられる。宮古にいないだけでは得ることができない教育制度を充実させる必要があると思う。実際私が中学、高校の時は海外留学制度があり、ほかの地域では実施しているところもある。このような海外への留学を支援するような制度なども充実して

(事務局)

ご指摘のとおり、復興教育は地震、津波などの自然災害を指している。これらを経験し学んだことを、自分のことに置き換えて考えていく力をつけたいということであるため、自分事という言葉を追加したい。

(事務局)

海外との交流学习は以前に比べ少なくなっている。高校での実施が多く、小中学校での実施は難しい。国際理解教育をするためには、まず自分のふるさとを理解することが重要である。宮古市で行われている国際理解教育に関する取組の1つは、クルーズ船が入港した際の交流である。今年は海外のクルーズ船が8回入港し、小中学校の文化発表や、学校訪問など子どもたちとの交流を行っている。

いけばよいと思う。

(委員)

キャリア教育については、しっかりと記載する必要があると思う。キャリア教育は、進路達成だけではなく、様々なことに興味を持ち、目標を持つことにもつながる。このような教育を小学校のうちから行うことが重要である。また、資格を持つ人が増えてほしい。私も国際理解教育とキャリア教育は項目を分けて記載するべきだと思う。

(委員)

キャリアや専門的な知識がないと就職だけではなく、様々な物事に取り組むことも難しくなっていると感じた。どのような形でも、多くの経験を積むことが必要だと思う。国際理解教育とキャリア教育の推進については、まとめられるところはまとめて良いと思うが、大事な部分には重点を置いて記載するべきだと思う。

(委員)

2 ページ (1) ふるさと宮古に誇りをもつ子どもの育成について、前段では交流事業について記載されていて、後段では環境問題への関心を高めることについて記載されている。交流学习を行う前提として、子ども達が宮古を良いところだと思っていなければならない。宮古を知って課題を見つけることで、参画意識を高めるといような前段になる部分が抜けているのではないかと思う。どういった活動によって宮古の子どもたちは宮古の良さを知り、知ったことを他地域との交流や国際交流で活かすのが重要である。また、交流する中で宮古の良さについて聞かれた際に、子ども達が答えられることも重要である。先日磯鶏小学校の活動に参加した際

(事務局)

各委員からあった国際理解教育とキャリア教育の推進については、(4) 国際理解教育と(5) キャリア教育の推進に分けて記載し、キャリア教育の重要性が伝わるように整理したい。

(事務局)

全国学力調査に、地域への愛着や社会活動への参加状況などの調査を行う質問紙というものがある。この質問紙の結果、宮古市は郷土芸能に参加したいという子どもや、地域に貢献したりしたいという子どもが多い。このようなエビデンスもあるため、こういったデータをもとにして、地域を愛する子どもの人数が多いといようなことを入れ込みたい。

に、裏山に散策に行った。山の神という祠をまつている場所があったが、子ども達はこの祠を知らなかった。子どもたちは、身近なところに魅力があるのに知らないこともある。前提となるどのような取組で子どもたちが宮古の良さを知るのかを記載することで、良さを知ったうえで交流などを行っているという安心感がうまれる。

(委員)

2 ページ (1) ふるさと宮古に誇りをもつ子どもの育成の最後の1文は、(1)のまとめになる部分だと思う。この文をまとめと考えると、「産業・文化・歴史を学び」という言葉を追加したほうが良いのではないかと思う。環境、エネルギー問題と、郷土を愛することは内容が異なるため、環境やエネルギー問題に対する関心については、切り離して考えたほうが良いと思う。

(委員)

先ほどいじめの認知件数の増加に関する意見があった。早く察知することを重視するのであれば「道徳性を養うとともに、いじめ防止に向けた」は削除したほうが良いと思う。

(委員)

5 ページ目 (4) 食育と口腔衛生の推進について「小、中学校においてフッ化物洗口の実施を推進し」とあるが、フッ化物洗口はあくまでも1つの手段であり重要なのは歯磨きであるため、歯磨きという言葉を入れてほしい。

(委員)

6 ページ (2) 特別支援教育支援員の配置と資質向上について、支援を行う環境がしつ

(事務局)

現在は、宮古恵風支援学校と連携を深めて

かりと整っていない部分があると思う。先生方の対応の仕方や、保護者などとの関係性についても、壁があると感じることがある。支援が必要な子どもが十分な支援を受けられず、成長できていない場合があると感じる。

(2) の資質向上のためのプロセスに関して、目標さらに大きくし、深く記載してほしい。また、特別支援員だけではなく、全体で育てていくというような教育が必要だと思う。

(委員)

7ページ(1)教育相談体制の整備・充実について、「早期発見・早期対応・早期解決」とあるが、とても難しいと思う。特に早期解決はとても難しい。長い期間をかけ、向き合っていくという表現にした方が良いのではないか。

(委員)

21ページから25ページまでの第3章スポーツ・レクリエーションの振興について、先日陸中ビルでフリースタイルダンスの大会が開催された。みやこで開催されるのは5回目である。小学生から20、30代まで幅広い年代の参加者があった。市内での宿泊もしており、地域振興にも関わった大会だと思う。私はこの大会が開催されていることを知らなかったが、大会はとても盛り上がっていた。各論の中でスケートボードに触れているが、そのほかにも様々な取組を行っている方々がいる。このような取組を発掘し、地域振興につながるスポーツ振興を行ってほしい。

いる。先生方も毎年100人程の先生が入替られている。特別支援学級を初めて担当する方や、親御さんとの関係が思わしくない場合もある。先生方の研修については、今までどおり県立高校の専門性の高い先生が各学校を回っているため、そういうふうな制度も活用したい。宮古恵風支援学校との連携を深めるという文言を付け加えたい。保護者の方とも十分な情報共有はしているが、先生方に対してもご指摘事項があると思う。改めて研修会等についての文言を入れ込むようにしたい。

(事務局)

例としてはスケートボードを挙げたが、今委員がおっしゃったダンスの大会については我々も認知していなかった。今日いただいた情報の共有を行い、広く振興を図っていきたい。

(委員)

幼・保・小連携について、特別支援のページに記載されているので、今後期待したい。1人1台端末を活用したアンケートのほか、端末を有効的に活用できればよいと感じた。不登校の子どもが増えているということで、学校に行けない場合でも授業を受けることなどができればよいと感じた。

(委員)

22ページの第2節活動機会の提供の現状にある検討委員会という言葉は、前回の資料にはなかったと思う。もしこの検討委員会が継続できるのであれば、今後も継続すべきである。地域移行を行ううえで細かい問題もある。ある程度話し合いを行っていく必要がある。このような問題を解決するために、検討委員会が機能すればよいと感じた。

(事務局)

幼・保・小連携について3年前に岩手県教育委員会では、保育園、幼稚園の先生方が研修を受けやすくするため、文部科学省の指導で幼児教育センターを作った。保育園、幼稚園の先生は研修の時間をとることが難しい状況である。解消に向けて県が国と連携しながら取り組んでいる。先生方の意見を尊重して県と協議しているため、もう一度連携の在り方について整理したい。1人1台端末のアンケート以外の活用は、現在少しずつ取り組んでいる。不登校の子どもたちは個々に様々な事情があるため、学習保障を行いたい。その1つの方法として、1人1台端末を使っている学校も少しずつ出てきている。学校と距離を置きたい子どももいるため、適切に活用していきたい。いただいたご意見をもとに、さらに拡充していきたいと思う。また、子どもたちの状況を見極めながら、少しずつ復帰に向けての手助けになればよいと思う。

(事務局)

文部科学省では令和5、6、7年の3年間で部活動の地域移行のアプローチを行うという考えが示されている。令和8年以降は、10年かけて市町村ごとに対応するという考えである。市町村によって考え方は異なっている。我々は10年かけて取り組みたいと考えている。子どもたちがやりたい競技ができるよう環境を整備したい。全体的な方向性は国でも示されていない。子どもの人数は年々減っており、人口は1,000人程減っている。その中で、高校も含め既存のクラブの維持は難しい。部活動が廃部になったり、連合チームになったりしているものもある。このような現状に合わせて子どもたちの環境を保障したい。部活動に入らなければならないという決まりはないので、個人的にクラブチームな

<p>(委員)</p> <p>将来宮古で働きたい、地元で活躍したい、あるいは宮古を出て活躍したいという子供たちのために、キャリア支援を重視してほしい。また、将来の宮古を担う人材を育てていくためには、教員の支援が必要不可欠だと思う。職員研修の実施などによる、職員の資質向上に力を入れて、子どもたちからも、保護者からも尊敬される教員、支援員を、宮古市で取り組んでほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>色々なことが変化していて、自分たちが経験したことを活かすことが難しくなっていて戸惑っている部分がある。先生方も苦労している部分が多いと思う。その中で人的な配置についての配慮が必要だと思う。</p> <p>(委員)</p> <p>18ページ(2)青少年の学習活動の支援の最後に「放課後などの子どもが安全・安心に活動できる居場所を確保するため、地域の活動拠点づくりを推進します。」とあるが、これは学童のことか、これから地域の活動拠点というのが増えるのか。</p> <p>(委員)</p> <p>私が所属する団体の事業は多岐に渡っているが、簡単に言うと、子どもや若者の居場所の提供と社会参加の場を提供している。居場所という観点から今の質問をした。今まで</p>	<p>どに所属することも可能である。検討委員会は令和7年まで続く。県でもまだ地域移行に対する考えはまとまってないため、これからは意見を聞きながら進めていきたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>教員の研修は、採用後1、2、3、5、10年目に行っている。それに加えて役職に合わせた研修や、情報教育の勉強会のようなものも行っている。今ご指摘のあったとおり、さらに先生方の資質が上がるように、刺激を与えていきたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>この計画での活動拠点は、川井の放課後子ども教室のことである。学童は、所管が厚生労働省であり、保健福祉部の担当である。ですが、基本的に安心安全に活動できる場所という意味では同じであるため、保健福祉部と連携をとりながら整備したい。新しい活動拠点をつくるのではなく、今ある環境の中で居場所の確保を行い、拠点になるように取組を進めていくという意味合いである。</p>
--	--

フリースクールは行っているかというよう  
な問合せが何件かあった。現状としては、午  
後3時から小中高生が来られるようにフリ  
ースペースを運営している。以前、中学生が  
このフリースペースに通っていたが、その中  
学生は、高校からは学校に通えるようになっ  
た。このような経験から、今後サーモン教室  
以外の選択肢になりうるかもしれないと感  
じた。それから、地域と若者をつなぐような  
活動として、ボランティアのコーディネート  
や、高校生と短大生に向けたボランティアサ  
ークルのようなものを運営している。ボラン  
ティアの依頼があれば、好きな時に参加でき  
るような登録制のサークルである。自分の関  
心がある活動に参加することができる。資料  
の中で部活動の地域移行は、スポーツや芸術  
について触れられている。今後ボランティア  
やまちづくりクラブのようなものに取り組  
んでいきたいと思っている。これらの活動も  
部活動の地域移行の受皿の1つになるかと思  
っている。そうした活動が宮古市への愛着  
につながるのではないかと感じた。

(委員)

郷土芸能でも少子高齢化が進んでいるた  
め、子どもたちが郷土芸能に参加できるよ  
うな時間を設けてほしい。小中学校で郷土  
芸能に取り組んでいる学校はあるか。

(委員)

各論で具体的な体験と場所についての記  
載があればよいと感じた。岩手県内の野  
外活動センターについて調べてみるとあ  
まり多くない。宮古市に野外活動セン  
ターがあるのはとてもすごいことだと改  
めて実感した。野外活動センターの活  
用については可能性が

(事務局)

千徳小学校で七つ踊りの保存会がある。  
クルーズ船が来た際には披露した。それ  
から部活動の地域移行にあたって、郷土  
芸能も含めたら良いのではないかと  
いう話も出ている。このような取組  
の中で、後継者の育成などに  
取り組んでいきたいと考えている。

(事務局)

ご指摘のあった件は、生涯学習に  
当てはまる。事務局で整理して、  
野外活動センターに関する情報  
を入れたい。

とてもあって、県内でも有数の場所だと思う。このような場所は、子どもの社会性や問題解決能力、コミュニケーション能力など様々な成長を促すことができると思う。野外活動センターなどの施設もできるだけ活かしたら良いと思う。これが学校教育の中の、どこかの章でふれていただくのが良いのかと思う。例えば、第6節にあった教育環境の充実で触れたらよいのか、あるいは、総論の第3章(5)家庭及び青少年の学習活動の支援の中でふれるべきかと思う。教育施設としての活用の可能性があると思う。地元の人たちも、活用について関心を持たれる方がいるため、工夫しながら触れていただきたい。

※意見については検討のうえ反映させたい。